



佐賀小学校(19人)

新1年生の皆さん
ご入学おめでとう
ございます

※ほか6校は、5月号に掲載しています。

であいの里蜷川20周年記念式典

5月1日(日)、集落活動センターであいの里蜷川で、「であいの里蜷川20周年記念式典」が行われ、約40名が参加しました。

であいの里蜷川は、平成14年に行われたよさこい高知国体の民泊の受け入れの際に、廃校を利用したことがきっかけで活動が始まりました。平成28年には県内30カ所目の集落活動センターとして開所し、現在も宿泊事業やモニタリングの提供、いなか寿司作りなどの体験事業、商品開発などの活動に取り組んでいます。

式典では、松本敏郎町長ほか関係者からの祝辞や、餅投げがあった後、祝賀会が行われました。

金子貴博(なかい)会長は、「コロナ禍で開催できるかどうかからなかったが、多くの人が集まっていたので感謝している。式典後の餅投げにも多くの地区住民が集まってくれて嬉しい。これからも地区の皆さんに協力していただきながら、一緒に活動していきたい」と話しました。



餅投げの様子

皆さんに協力していただきながら、一緒に活動していきたいと話しました。

大方高校で命を守る防災授業

4月20日(水)、(株)フタガミの講師を迎え、同校地域創造コース2年生12名に対して防災授業が行われました。本授業は、災害をはじめとする生命を脅かす事柄に対して、自らの命を守るとともに、他者の命も守る力を身に付けるための「ライフセービング」という学習の一貫として行われました。

生徒らは、自分の命を守るための事前対策の重要性について講義を聞いたあと、発泡スチロールをブロック塀に模したものでブロック塀の倒壊の様子や揺れマット、ガラスの飛散対策、防災グッズの活用などを体験しました。

授業を受けた岡田祈織(いのり)さんは、「固定されたテーブルなどがある起震車と違い、揺れマットは何もつかまるものがなく、倒れないように耐えるのが難しかった。今回の授業で知ったことを家族や地域の人に伝えていきたい」と話しました。



揺れマットを体験する生徒

今回の授業で知ったことを家族や地域の人に伝えていきたいと話しました。

また、4月27日(水)には、「ライフセービング」の学習の一貫として、土佐清水市国立公園園ジオパークから講師を迎え、同校地域創造コース2年生12名に対して防災授業が行われました。

生徒らは、地震の規模や揺れの大きさ、震度などについての説明を受けた後、南海トラフ地震や津波について学びました。また、南海トラフ地震に備えるために地震によってどんな現象が起こるのか、どんな対策をすれば良いのかを学びました。

授業を受けた金子愛那(あいな)さんは、「マグニチュードと震度の違いは知らなかったのが、知ることができて良かった。避難行動が場所によって変わってくるので、いろいろな場所での避難訓練も必要だと思った」と話しました。



授業を受ける生徒ら